

表題：「遊休農地の活用によるソバの商品開発までの取り組みについて」

市町村名 茅野市

活動主体：株式会社ライフツール

○再生農地におけるソバの栽培について

茅野市玉川穴山地区内において、農業従事者の高齢化や後継者不足等の理由により耕作できない耕作放棄地・遊休農地が発生していたため、同地区内で建設業を営む株式会社ライフツール（代表取締役社長：伊藤勇祐氏）が新たに農業部門を立ち上げ、農地の再生作業を行った。

きっかけは、平成23年3月11日の東日本大震災の被災者が働ける場所を提供したいとの思いから、当市の担い手育成総合支援協議会に相談を持ち掛け、地域内の遊休化していた圃場11ヶ所（85a）を利用権設定により借り受けた。

被災地へ希望者を募ったところ、結果的には希望者は居なかったが、「せっかく借りた農地は責任を持って管理する。」との強い意志で再生作業を進め、同地区内にそば組合（穴山地区営農組合）が活動していたことと、再生作業初年度から農作物を栽培したいとのことから、栽培品目にはソバを選択した。

しかし、元々荒れていた農地であったため、土壌改良・雑草対策等には相当な苦労も強いられ、農業の経験も全く無かったことから、知人・近隣農業者へも何度も足を運び栽培方法等のアドバイスを受けながら、初年度から収穫まで漕ぎ着けることができた。

○自社ブランドの商品化と今後の展望について

耕作放棄地の再生地から収穫されたソバは、茅野市内の製粉業者にも協力を仰ぎ、乾麺として自社ブランドの商品化も果たしている。

商品名は、八ヶ岳西麓地域においては、縄文時代に「矢じり」として利用されてきた黒曜石が多く出土していることに因んで「黒曜蕎麦」と命名（商標登録済）し、既に販売も開始されている。

この一連の取組については地元新聞社からも注目され、記事として紹介された。

平成24年度には、新たに農業分野を専業とする「彩食工房ひな株式会社」を設立し、農林水産省から6次産業化法に基づく総合化事業計画の認定も受け、将来的には自分たちが栽培した玄そばを100%使用して、地産地消も含めながら地元で提供できる「蕎麦店」の開店を目指している。

また、更には直売所の開設も視野に入れ、野菜類の栽培へと新たな挑戦も始まっている。

写真① (作業開始前の圃場)



写真② (再生後のソバ畑)



写真③ (商品化された黒曜蕎麦)



【報告：茅野市担い手育成総合支援協議会】